

貼り合わせて型紙を作ってください。

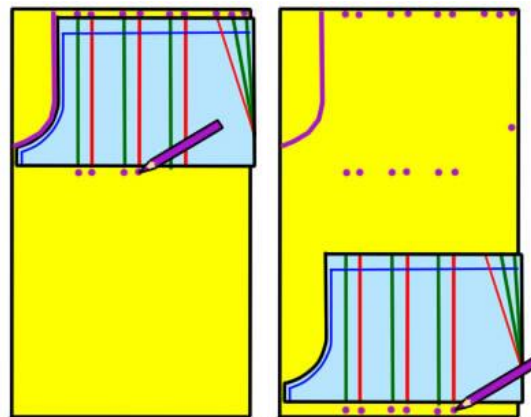


布の幅が 112cm 以上のものを選ぶと効率よく布を使えます。

先に長方形に布を 4 枚切ってください。

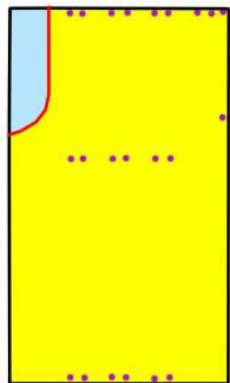
縦 出来上がりの丈+8cm。

横、56cm



一見型紙は短すぎて不安になるかもしれませんが、切れている部分から下はまっすぐなので、図のように型紙をずらして印をつけるだけで大丈夫です。

表から印をつけると左右混乱しなくてすみます。切りじつけについては縫う前の下準備をご覧ください。

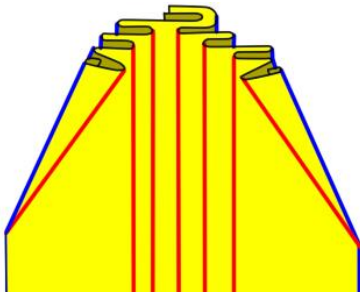


股の上(水色のところを切り落としてください。

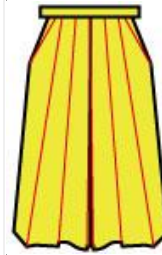


しつけ糸を使って印をつけると裏表両方から印が見えるので折る時に便利です。

このとき山折と谷折で色を変えておくと間違えにくくてオススメですよ。



一度型紙を折ってみるとわかりやすくなります



前

ひだを折ってください。

実際に型紙を一度折りたたんでみると理解しやすくなりますよ。それをみながら折ると失敗しにくいです

アイロンをかけて型をしっかり付けてください。

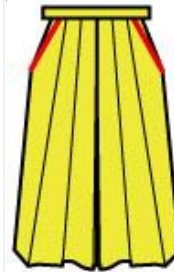
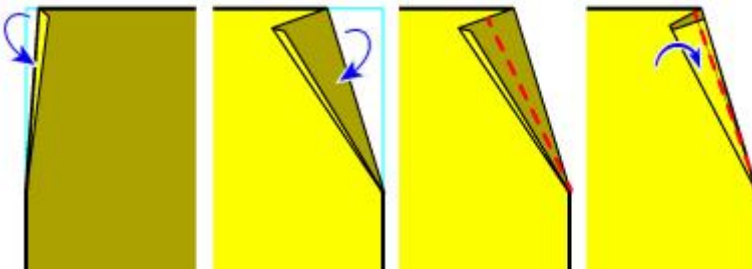


アイロンをかけるときに、折り目強力をかけておくと、**作ったはいけどイベント会場に持っていったときには、ヒダが取れてくしゃくしゃ!**というのが防げます。

生地に湿る程度に振りかけてアイロンをかけると、プリーツが消えにくくなります。

これをしていないと、着ているうちにヒダが消えてしまいます。

プリーツスカート等ヒダの取れて欲しくないもの、スラックスとかおり目がぴったり入っていた方がいい服などの折り目の固定にも使えるので、1本買っておいて損はないですよ!



斜めの折り目を**笹ヒダ**というそうです。

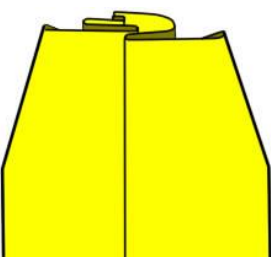
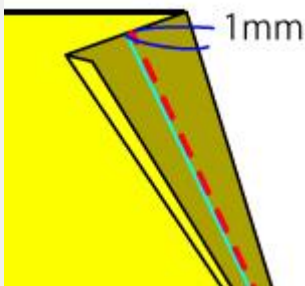
(1) 脇側の折り目を裏に折ってください。

(2) 一番内側の斜め折り線から表に折り返して下さい。

(3) 脇から2本目の折り線の1mmほど脇側を縫って下さい。

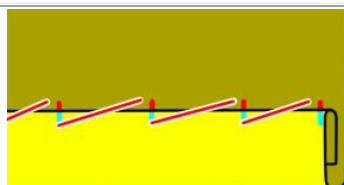
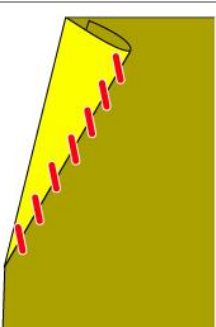
(4) 2本目の折り線で脇に向かって折り、端を縫って下さい。

(4) 本当の和裁だとまつり縫いといって表に出ないように縫っていくのですが、コスプレ用ですのでミシンで端から2~5mmのところを縫っても良いです。

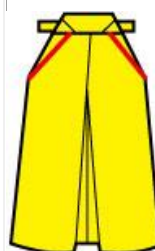


後

前と同様にプリーツ固定液をかけてアイロンで折ってください。

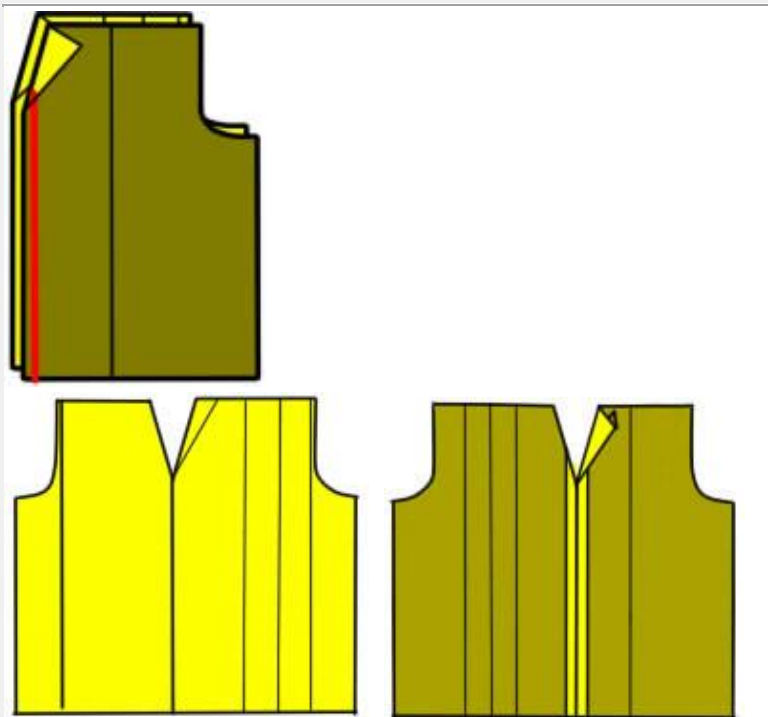


まつり縫い。

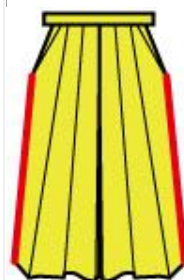


斜めのヒダの所は、裏へ斜めに三つ折りして、裏側からまつり縫いをして下さい。

ミシンで縫っても良いです

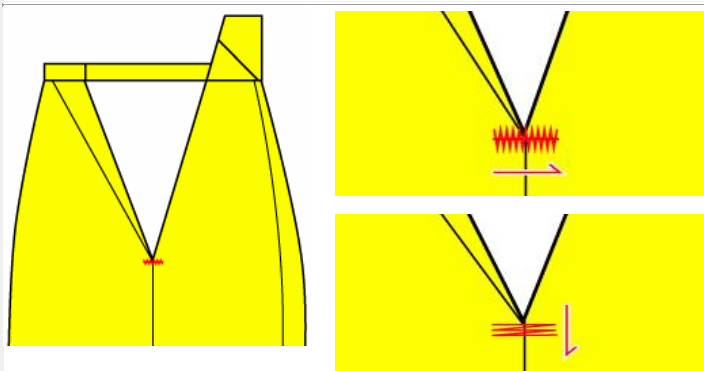


広げて表から見たところ 裏から見たところ。



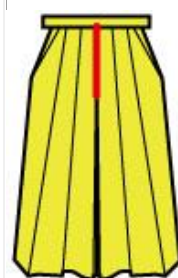
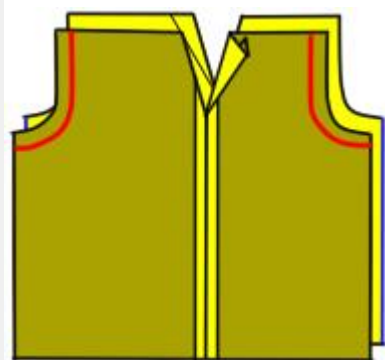
前身頃と後身頃の脇(斜めの笹ひだのあるほう)を縫って下さい。

見にくくなるので、以降たたんだヒダは省略します

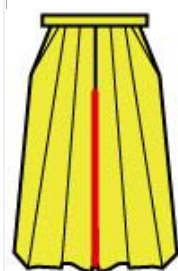
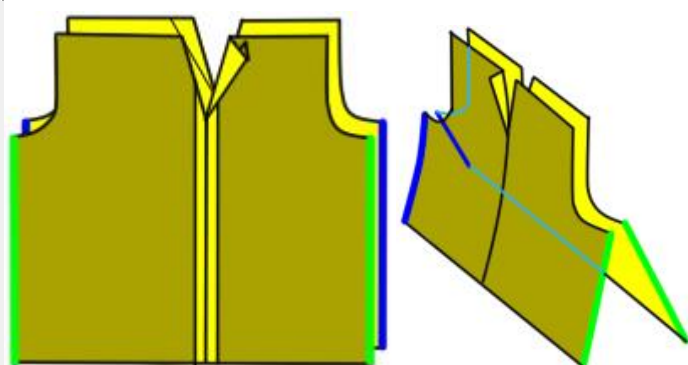


まっすぐ縫っただけだと脇が破れやすいので、縫い合わせた一番上のところを縫って補強します。ミシンのジグザグ縫いを選択し、縫い目の長さを短くして縫ってください

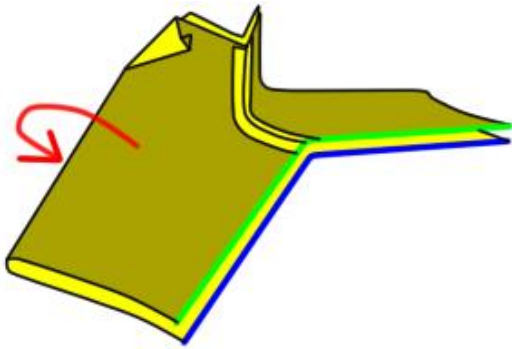
横幅の狭いジグザグの場合は上の図のように。横幅の広いジグザグができるなら上下どちらでも大丈夫です。



左右の袴を表同士が内側になるように重ね、前中心の股上を縫って下さい。

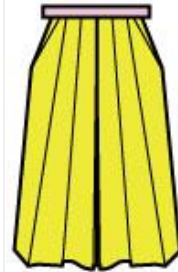
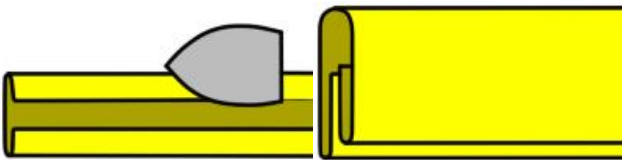


股下部分(青い所)を左右に広げて下さい。(下図参照)



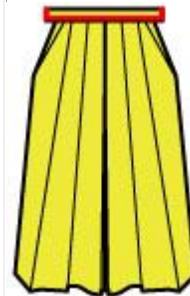
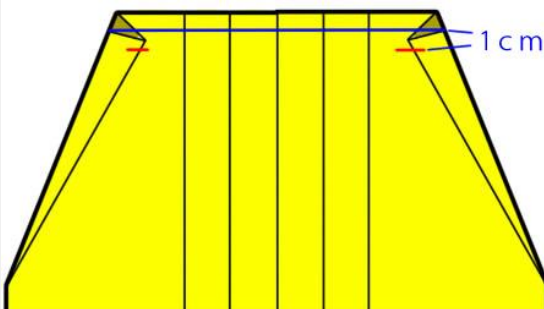
股の下を縫う

これで表返せばズボン状になります。



前のウエストベルトを折って下さい。

ウエストベルトはあらかじめアイロンで縫い代を裏側に折って下さい。半分に折り目を付けて下さい。



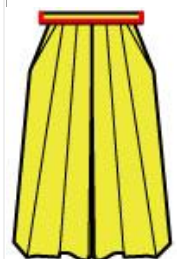
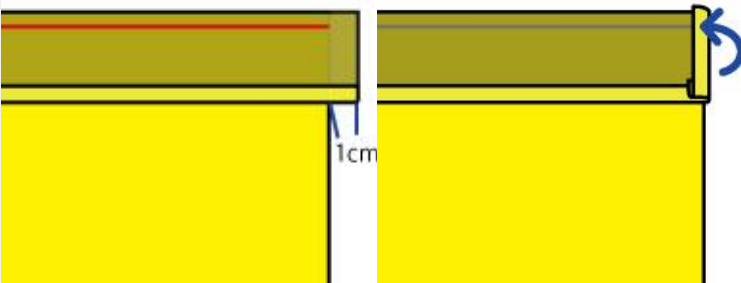
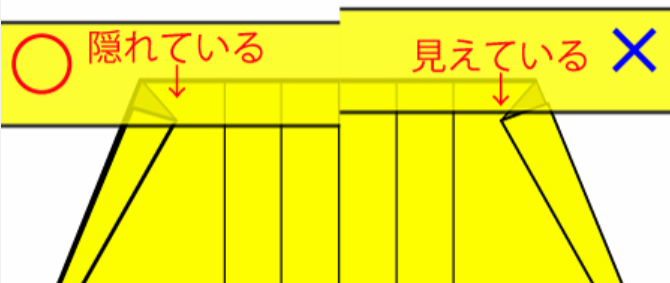
ヒダを折ると両端の笹ヒダの上側が内側に入るので表に出ないようにするために、笹ヒダの下がった所から2~4mm下がった所に印をつけて下さい 赤線



そこから1cmの所に線を引いて下さい。

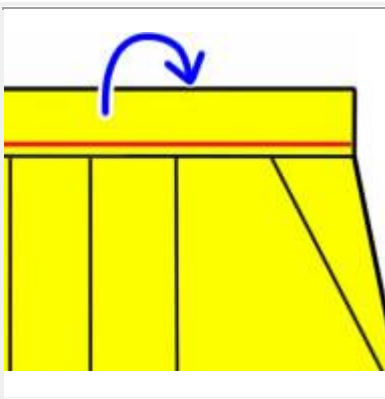
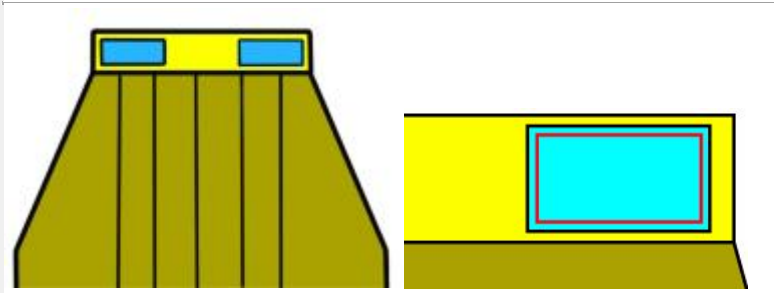
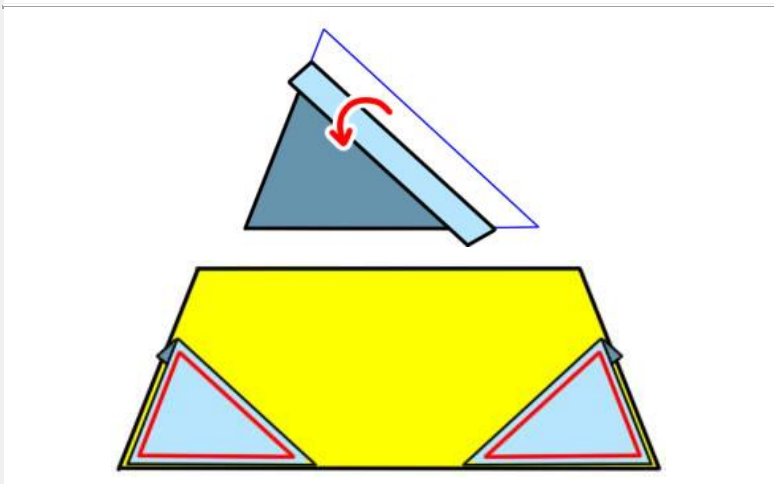
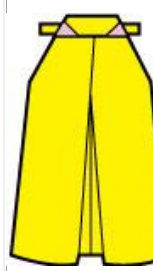

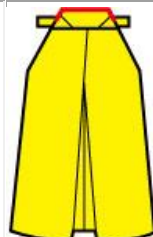
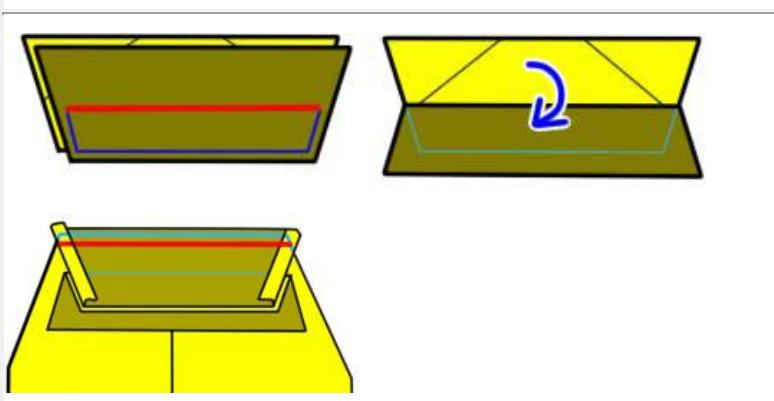
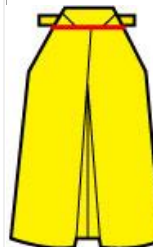
この線に帯の端を合わせて1cmの縫い目で縫うと表から笹ヒダの端が見えません

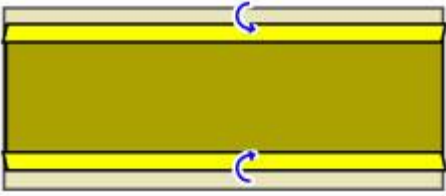
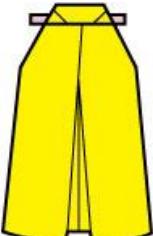

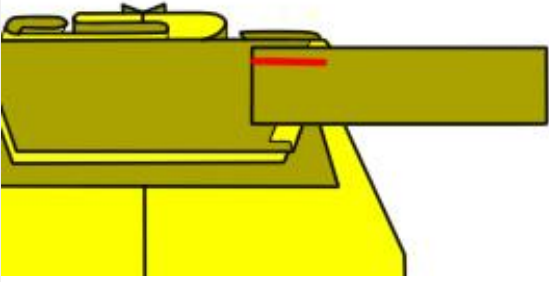
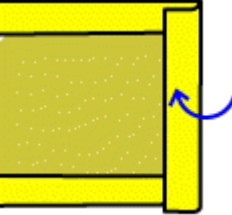
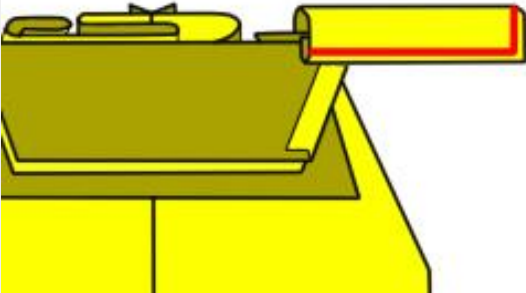
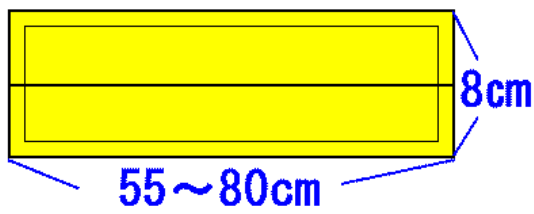
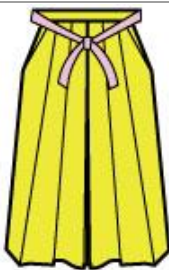
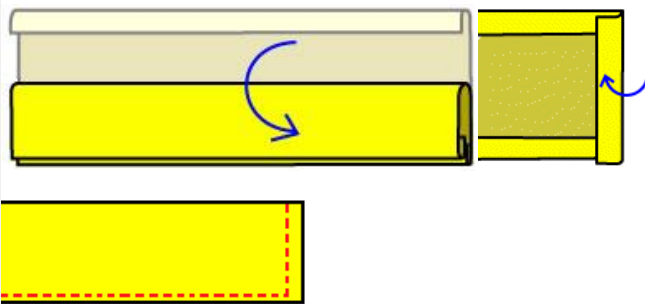
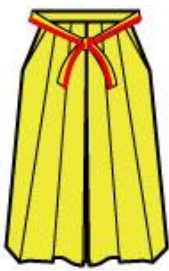
印から上の縫い代が芯がわりになります。縫い代が帯の幅より広い場合は切ってください。



表を上にした前身頃に裏を上にした帯を重ねて下さい。

縫い代1cmはみださせて下さい。両端の縫い代を裏に折ってください

	<p>表返してください。</p> <p>ミシンで 5mmの所を縫って下さい。</p>
	<p>コスプレ衣装などで袴のウエストが隠れるデザインならば前を短く作りマジックテープで止めるように作ると着替えが楽です。</p> <p>前見頃(前ズボン)の帯の裏側にマジックテープ(柔らかいほう)を縫い付ける</p>
	 <p>三角形の布を図の様に中心側になるほうを 1cm折って下さい。</p> <p>台形のパーツの上に重ねて端から 2~3mmの所を縫って下さい。</p> <p>(表側になる分だけ裏に隠れる方の台形のパーツにはつけないで良い)</p>
	 <p>表同士が内側になるように2枚をあわせ縫って下さい。</p> <p>表返してください。</p>
	 <p>上下を逆にしてください。</p> <p>裏(三角形が無いもの)を下によけてください。</p> <p>後身頃と表側だけ、内側同士が表になるように重ね縫って下さい。</p> <p>このとき縫い付けるほうの左右の縫い代を内側に向け折って下さい。</p>

	 <p>アイロンで後ろ帯の縫い代を折って下さい。</p>
	<p>アイロンで縦半分に折ってください。</p>
	 <p>帯をいったん広げ、裏を上にして背板の上に重ねて縫って下さい。 帯の両端の縫い代をを裏へ折ってください。</p>
	<p>アイロンの折り目で帯を折ってください。 端から 5mm の所を縫って下さい。</p>
	<p>前で結べる長い帯もつける場合 縦 8cm 横 55~80cm の長方形を 2 枚切ってください。 長めに切って結び紐の結び方や腰まわりのサイズによって長さが変わるので、長めに作って袴に縫い付けるときに片端を切り落として調整してください</p> 
	 <p>他の帯と同様にアイロンで縫い代を折り、半分に折って下さい。 端から 3~5mm のところをミシンで縫って下さい。</p>

	<p>短い帯の上に長い紐を重ねて下さい。 中心側の隠れる部分だけを縫って固定してください。 ※生地にもよりますが、長い紐までつけるとかなり厚くなりますので、この場合は手縫いで縫うことをおすすめします</p>
	<p>背板を帯に挟み込むようにかぶせてください。</p>
	 <p>端から2~5mmのところを縫って下さい。</p>
	<p>短い帯の表側にマジックテープ(硬いほう)を置いて縫ってください。</p>
	 <p>一度試着し、お好みの丈になるように折ってください。 すそをアイロンで折って縫って下さい。 出来上がり。</p>

必要な道具

表生地幅によって変わるので10分の1サイズで確認してください

接着芯 (31cm×12cm 2枚)、マジックテープ (縦横2cm×5cm 2片)、糸

オススメの生地

厚すぎない張りのあるツイル

かばんなどにつめて持っていくコスプレ衣装等の場合は、シワの入りにくい原材料がポリエステルの方がいいと思います。

柔らかいツイルは折り目をつけるのが大変なので避けたほうが無難です。

ブロード

薄手で少し張りのある生地です。

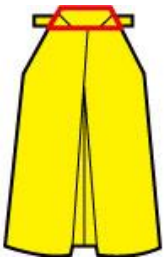
色、柄の多い生地です。

ただし薄い色の場合透けやすいので裏地をつけるか厚いものを選ぶのがいいでしょう。

薄いのでペラペラしてしまいやすいので、洗濯のり (スプレーキーピングなど) をかけて張りを出してから使うといいと思います。

シャンタン

横糸が太くてところどころ節があり素朴な雰囲気がありながら光沢があったりするのでパリッとしていながらやさしくて上品という不思議な風合いです。しわになりにくいポリエステルのものもあります



接着芯

張りのある不織布タイプが向いています。

接着芯がない場合は、厚みのある紙やプラスチックを、この後のパーツより厚み分小さく切って中に入れてください。

洗濯をしたいなら、接着芯が手入れも楽でいいと思います